

令和8年度 第1回地域日本語教育とうきょう推進会議（概要）

1. 開催日時：令和8年7月30日（木）10：00～12：00
2. 開催方法：ハイブリッド開催
3. 参加者：11名（神吉委員（座長）、加藤委員（副座長）、阿久津委員、亀井委員、佐藤委員、シュレスタ委員、角南委員（オンライン）、チョウチョウソー委員、富田委員、長谷部委員、山形委員）
4. 内容：東京における「地域日本語教育の体制づくり」のあり方を踏まえた学習環境の整備に向けて

【資料】



議題 国の日本語等学習プログラムとの役割分担や、令和8年度調査の結果※に基づき今後都が行う環境整備の取組に備えるべき機能等

※令和8年7月末時点の状況

- （1）学習の入口につなげるための仕組みや機能
- （2）学習の継続を促すための機能
- （3）地域社会との接続を促すための機能

（1）学習の入口につなげるための仕組みや機能

- 日々の生活が大変で学習機会が得られないといった方にとって学習のハードルは高いため、入口に関しては学習効果の実効性を担保しつつ、外国人に対して強く学習を促すことも有効
- 日本語学習できる環境の存在や学習の必要性をエスニックコミュニティのリーダーやキーパーソンを通じて発信することが有効。また、ネパール人は100人規模の集会を頻繁に行うため、そうした場での発信も有効。その際、エスニックメディアなどコミュニティ内の様々な情報発信媒体を活用する視点も重要
- 一方、コミュニティ内で完結するため日本語が不要と考える人が出てしまうことは危険。災害時など、いざという時のために既存の地域コミュニティとの接続が重要で、そのための日本語習得の必要性も併せて教える必要

- 移住者の**第1世代**は学習情報の得づらさ、日々の忙しさなどから**日本語ができない方が多い**ため、**初期の日本語教育が重要**。一方、第2世代は、日本語でコミュニケーションは取れるが、学校での勉強に必要な学習日本語が必要、という状況。**第1世代の保護者へのアプローチ**には**学校の活用**も有効
- **第2世代**は自身に**ルーツとなる国と日本の両方の文化**を持っていて、こうした第2世代こそが**グローバル人材**ではないか。
- 在留制度が厳しくなり日本で暮らすハードルが上がっている。日本が選ばれ続けるためには、日本語や日本文化・社会に関する学習を強く促しつつ、**学習することが当たり前、学習により日本での暮らしがより良くなるという共通認識を形成**していくことが必要。一方で、**自発的な学習でなければ効果が生まれづらい点**には留意
- **強く学習を促す外因的動機と、インセンティブによる内因的動機**を組み合わせることが有効
- 日本語ができるとより暮らしやすくなるということを伝えていくために、**コミュニティのリーダーや地域の外国人を集め一緒に考えていく会議体の設置**は有意義
- 子育てや通訳、病院や行政窓口で**実際に関わりのある人から発信**してもらうことが**入口につながりやすい**のではないかと。

(2) 学習の**継続を促す**ための機能

- **オンラインでの自学習の継続を促す**には、**人が介在した伴走支援が極めて重要**。地域接続の視点からも欠かせない。
- 介在する人材に外国人を起用することは**利用者のハードルを下げる点で有効**。しっかり**対価を支払い持続可能な体制を築く**べき。立ち上げ当初は**インフルエンサーやコミュニティの代表者**などに入ってもらえると**集客面で効果的**。留学生や学生もよいが時限である点に留意
- **学習の継続**には、**ゲーム性や娯楽性**のような要素が重要。また、**日本語ができると得られる機会の発信**することも有効
- **日本語学習を軸にした設計ではなく、ライフイベント、ライフサイクルを軸にした設計の方がモチベーションの維持に有用**

- ポータルサイトにアクセスされないことには学習が進まないため、日本語学習と関係せずとも、**アクセス自体が習慣化するような動機付け**（ポイント付与やコンテンツ内のキャラが成長等）の**仕組み**がつかれるとよい。
- **東京アプリからポータルサイトにアクセス**できるようにし、**外国人だけでなく日本人にも認識**してもらうことが**意識醸成の視点**から重要。**東京ポイント**は、**最初の段階**ではポータルへの登録や日本語学習のビデオ閲覧等を付与対象とし、**ハードルを下げる**ことが重要
- 以前、国や自治体が**給付金**を配った際、**それまで全くリーチできず、所在もつかめていなかった外国人からのアクセス**（取得方法の質問等）があり、**金銭面がもたらす効果**を実感

（３）**地域社会との接続を促すための機能**

- 外国籍区民の割合が1割に迫る中、外国人のマナー等に関する苦情が連日寄せられている。単に自学に対して優遇するような見せ方では、日本人の理解は得られない。学習の先で、外国人が地域社会を担う存在になることを目指した取組であることが分かってもらえるような発信の仕方を考える必要
- 多言語対応等の充実が、一方で外国人の学習意欲を削いでしまうジレンマは課題。学習への強い誘導も視野に試行錯誤していく必要
- ごみの捨て方一つ取っても日本と外国では習慣が異なるため、ルールやマナーが設けられている背景、理由をきちんと伝えることが重要。ごみ・音・匂いの三点にきちんと対応できれば、問題の多くは防げる。
- 外国人住民への説明に当たっては、**エスニックコミュニティの人物と連携**できると、感情面への対応含めて理解促進に有効
- 社会接続の目的のひとつに、**アンダーグラウンド化しないような仕組みの構築**がある。そのためには、**自国のアイデンティティ**とともに、日本で生活することの**アイデンティティ**を持ってもらうことが重要。例えば、通訳者への同行や学校での支援、初学者への教師役の経験など、**意図的な社会参画の仕組み**を設計することが有効で、外国人の**ロールモデル化**にもつながる。

- **地域の国際交流協会等**が開催する**外国人・日本人の交流会等**をポータル上で案内していただくとよい。一方で、そうした場には**交流したい人しか出てこない側面**も。高齢者やコミュニティ内で完結している方などの**接続しづらい人**に届けるには、**町会・自治会や社会福祉協議会、民生委員が機能する仕組み**も必要
- **防災訓練**は、**外国人が地域社会に貢献できる姿**を最もイメージしやすい取組
- **国籍関係なく交流を目的としたサークル活動**が行える機能があるとよい。
- **スポーツ**は言語や地域を問わず交流できるので、**スポーツ推進員と連携し、スポーツを通じたつながりづくり**も有効
- **就労支援の側面**では、面接対策や給料の高低以上に、日本の商習慣や企業の理解促進、居住地域の魅力や生活のしやすさなどの伝達が重要で、**企業や学校と連携した仕組み**がつくれるとよい。また、**キャリアコンサルタント（国家資格）の活用**も有効。社会接続のゴールを見据えた人材活用を検討していく必要
- **最終的には外国ルーツの方々が責任ある社会の一員として、地域を共によくしていきたいと考えてもらうこと**が共生には不可欠なので、**そこにつながる仕組み**がつくれるとよい。